

平成25年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成26年3月

鹿児島市（鹿児島県）

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点（平成26年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成19年12月に国の認定を受けた鹿児島市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）の終了に伴い、第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画を策定し、25年3月に認定を受けた。九州新幹線の全線開業効果を持続・拡大させ、交流人口のさらなる増大を図るため、観光・商業・交流によるにぎわいあふれるまちづくりを推進しているところである。

第2期計画の初年度である25年度は、いづろ・天文館地区においては、第1期計画で唯一未着手となっていた「照国表参道商店街ショッピングモール化事業」に着手し、照国表参道のアーケードの新設・改修が26年2月に完了した。この事業の実施により、中央公園を挟んで近接する歴史・文化ゾーンといづろ・天文館地区のアーケード群からなるショッピングモールが繋がった。「天文館千日町にぎわい創出検討事業」では、25年6月に千日町1・4番街区再開発協議会が設立され、商業・飲食機能を中心としつつ宿泊、コンベンション、業務、サービス等の多様な機能を内包する複合施設を開発構想としてイメージし、その具体化に向けて関係者による検討が進められた。更に、広く市民等から再開発へのアイデア、要望等の募集も開始した。「いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業」では、9月にいづろ交差点近くに貸切バス専用の乗降場を新設した。また、「天文館公園再整備事業」で再整備してきた同公園は、10月にオープンし、以降、商店街等が企画したイベントで活用されるなど、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。「東千石町12番街区整備事業」については、事業完了を26年度としてきたが、事業概要を26年秋を目処に改めて見直し、28年度の開業を目指すこととなった。

鹿児島中央駅地区においては、「中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）」の立体駐車場の増築が増床工事に先駆けて25年3月に完了し、10月からは増床工事（別館の整備）に着手した。同館は26年秋の完成・オープンを目指している。一方、「中央町19・20番街区市街地再開発事業」は、事業の見直しを行い、事業完了の時期が当初よりも1年延びて30年度となったことから、第2期計画の計画期間内にその成果を得ることが困難となった。また、鹿児島中央駅地区の南側に位置するJT跡地では、「鹿児島市立病院建設事業」による建設工事が進んでおり、27年度の開院を目指している。

上町・ウォーターフロント地区においては、「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業」の中で鹿児島駅周辺土地利用施設基本計画を策定した。一方、25年5月に、同地区内にある鹿児島港本港区に総合的な複合施設を整備する方針が県から示されたが、そ

の後、8月には、整備計画全体を再検討するとの表明がなされた。このようなことから、鹿児島港本港区への観光路線新設を検討する「路面電車観光路線検討事業」は、県の施設整備の方針が明らかになった時点で改めて検討することとした。

本市においては、中心市街地外の谷山地区にある大型商業施設イオンモール鹿児島が店舗面積を約6,200㎡増床して25年1月にリニューアルオープンしたこと、また、26年4月には消費税増税も控えていることなど、中心市街地を取り巻く環境は依然厳しいものがある。一方、長く続いてきた厳しい経済情勢に緩やかな回復が見受けられるなど好材料も出始めている。今後とも、市民、事業者、行政等が一体となって計画に掲げた各事業を着実に実施し、中心市街地の活性化に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。

2. 平成25年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第2期計画の1年目である平成25年度の取組状況としては、商業施設の増床工事や再開発計画に関する具体的な検討が進みつつあるものの、平成25年度のデータとして唯一数値目標を確認できる「中心市街地における歩行者通行量調査」の値も基準値を下回っていることや、一部の事業においては計画の見直し等により進捗の遅れが出ていることを含めて、地区ごとに濃淡が見られる。

上述のような現状認識から判断すれば、平成25年度から開始した事業が目標指標の数値に現れてくるには、一定のタイムラグがあることが推定される。

一方、定量的な指標による判断とは別に、関係者に対するアンケート等による定性的意見を加味すると、地区によって計画の波及状況には温度差はあることが明らかになった。

このため、「本基本計画は、鹿児島中央駅地区といづろ・天文館地区の一部では概ね予定通りに進みつつあるが、上町・ウォーターフロント地区は予定通りではない。」と評価するのが妥当であろう。但し、各地区ともまちににぎわいが戻ったとは言いがたい。

なお、今後の第2期計画による中心市街地活性化の達成には、民間事業の掘り起こしはもとより、まだ計画に盛り込まれていない既存の土地や近々発生が見込まれる、公有未利用地なども有効利用する必要がある。

特に、公有地の活用には、行政単独の提案ではなく、中心市街地の関係者や住民とともに全市民も含めて、幅広く議論を喚起することが大切である。

また、中心市街地のさらなる活性化を進めるには、当該土地の利用計画や単独の事業計画に終始せず、鹿児島中央駅北部を含め交通結節点エリアの強化など、広くエリアマネジメントの考え方を取り入れながら、今後の計画に位置づけることが重要である。

なお、鹿児島商工会議所から別紙のと通りの意見がありましたので、添付いたします。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量(30 地点、土日) (人/日)	165,664 (H24)	171,000 (H29)	152,707 (H25)	—	③
都市型観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数 (人)	7,762,000 (H23)	8,100,000 (H29)	7,653,000 (参考値:H24)	平成 26 年度 フォローアップ	
商業・業務機能の集積促進	第三次産業の従業者数 (人)	62,939 (H21)	64,000 (H29)	60,562 (参考値:H24)	平成 27 年度 フォローアップ	

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①歩行者通行量

歩行者通行量は、第1期計画の取組により平成24年まで徐々に増加を続けてきたが、最新値である25年は、基準値である24年の165,664人を大幅に下回る152,707人となり、12,957人減少した（約7.8%減）。

地区別の減少率は、いづろ・天文館地区が約6.4%減、鹿児島中央駅地区が約13.3%減で、鹿児島中央駅地区の方が大きかった。

桜島の火山活動が活発化しており、市街地では9月、10月に大量の降灰があったなかで、調査日にも度重なる噴火・爆発による降灰があり、市民の来街・回遊の意欲を削ぐ影響があったものと推測される。

また、本市の宿泊観光客は、25年5月以降対前年同月比で増加が続いてきたが、調査を行った10月には台風が4回接近し、6か月ぶりに減少した。前述の降灰による減に、台風による観光客等の減が加わり、減少率が大きくなったものと思われる。特に、本市の陸の玄関である鹿児島中央駅地区は、観光客等の減による影響が顕著であったものと考えられる。

中心市街地の魅力や賑わいを強化するために、25年度は「いづろ・天文館地区商店街活性化事業」など2事業を追加し、26年度からは「薩摩維新ふるさと博開催事業」等の4事業を新たに実施することとしている。桜島の火山活動など予測不可能な要素はあるものの、県内景況は緩やかに回復しつつあることなども考慮すると、歩行者通行量の目標達成は可能であると見込んでいる。

②中心市街地の年間入込観光客数

参考値扱いになるが、平成24年の中心市街地の年間入込観光客数は765万3千人と、前年に比べて10万9千人減（前年比1.4%減）であり、九州新幹線が全線開業した23年の776万2千人に次ぐ過去2番目の人数であった。全線開業から2年目を迎え、その効果が落ち着いてくる中で、急激な反動減に陥ることなく、一定の水準で推移している。

25年度は、例年実施しているおはら祭等のイベントでは多くの観光客を集めたほか、新たに“維新のふるさと鹿児島市”PRキャラバン隊を結成し各地のイベントへ派遣するとともに、テレビ広報等のメディアミックスによるPRや関係団体と連携したキャンペーン等による国内外からの誘客、また、修学旅行の誘致を行うなど、観光客増への取組も推進した。

これまでの観光振興等の取組により、主要宿泊施設の25年度宿泊客数は前年度を2.9%上回ったことや、26年秋にアミュプラザ鹿児島の別館がオープン予定であること、また、「薩摩維新ふるさと博開催事業」、「錦江湾潮風フェスタ開催事業」等や、中活事業には含まれないが、桜島・錦江湾ジオパークを生かした情報発信・案内機能向上のための事業等を新たに実施する予定であることから、中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

③第三次産業の従業者数

参考値扱いになるが、平成24年の中心市街地の第三次産業従業者数は60,562人で、21年の62,939人から2,377人（約3.8%）減少した。情報通信業や医療、福祉など従業者の増えた産業もあったが、全体としては減少した。また、市全域に占める中心市街地の第三次産業従業者数の割合も21.4%から21.0%に低下した。

20年秋のリーマンショック以降の厳しい経済情勢とそれに伴う厳しい雇用環境が続いた結果、24年2月における中心市街地の第三次産業従業者数は減少したと思われる。

24年2月の経済センサス調査以降は、中活計画の取組により、鹿児島中央ターミナルビルやかごつまふるさと屋台村等において約490人の新たな雇用が創出されている。

今後は、26年秋にアミュプラザ鹿児島の別館がオープン予定であり、その他にも「街なか空き店舗活用事業」による新規出店、「都市型産業振興事業」による情報関連産業やコールセンターなどの企業立地等により第三次産業の従業者の増が見込まれる。

26年4月の消費税増税による景気・雇用への影響が懸念されるものの、県内景気は緩やかに回復しつつあり、有効求人倍率や新規学卒者の就職内定率が上昇するなど、雇用環境も改善傾向にあることから、第三次産業の従業者数の目標達成は可能であると見込んでいる。

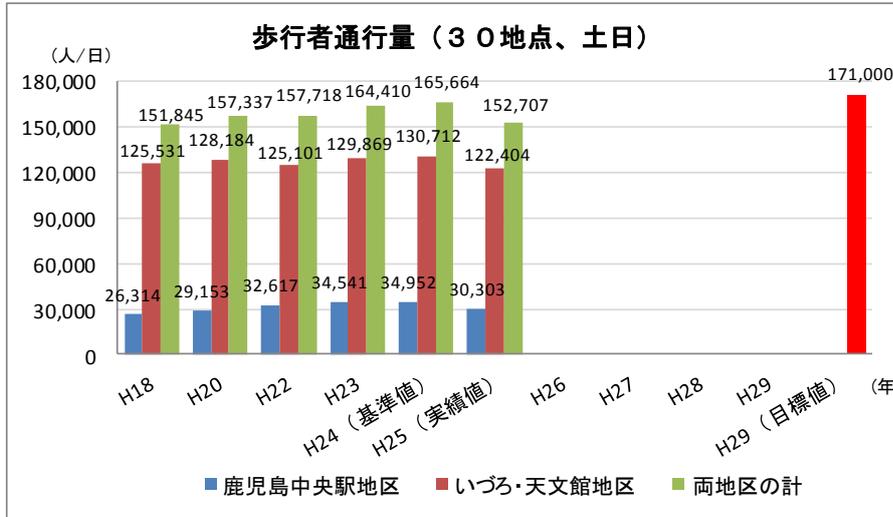
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P58～P62 参照

●調査結果の推移



年	(単位:人/日)
H24	165,664 (基準年値)
H25	152,707
H26	
H27	
H28	
H29	171,000 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月：平成 25 年 10 月

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：土・日曜日 30 地点の歩行者及び軽車両歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【未】平成 30 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	25 年度に施設整備やデザイン、資金計画等の検討を行うとともに、事業の見直しを行い、事業完了の時期が当初よりも 1 年延びて 30 年度となった。

②. 中央町 1 番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場の増築。
事業効果又は進捗状況	立体駐車場の増築工事は 25 年 3 月に完了し、供用を開始している。 アミュプラザ鹿児島の増床については、25 年 6 月に J R 鹿児島中央駅の大階段撤去工事を開始。10 月に増床工事（別館の整備）に着手。26 年秋オープンを目指している。

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

事業完了時期	【未】平成28年度
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に着工し、26年度の事業完了を予定していたが、26年秋を目処に事業概要を改めて見直すこととなり、事業完了の時期が当初よりも延びて28年度となった。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【未】平成28年度
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	26年度に建物・機械・電気機器等の機能更新やオープンカフェ設置のための基本計画を策定するために、25年度は飲食店や関係機関等と事前協議を行った。

⑤. 天文館シネマパラダイスと周辺商店街との連携（株式会社天文館、周辺商店街）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	商店街等と映画館の相互協力により、いづろ・天文館地区への来街者に対して、映画鑑賞チケットの半券を活用した「半券バリュー」などのサービスを提供するほか、毎月10日のテンパデー（映画鑑賞料金1,000円）にあわせ、周辺商店街において、映画観賞者の駐車場料金無料の時間延長や各種イベント等を連携して実施。
事業効果又は進捗状況	商店街の91店が連携協力し、映画館の年間利用者数も対前年度比で39.9%増（5月～翌年3月で比較）となるなど、成果が出始めている。

⑥. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	空き店舗への出店者を募集し、25年度は4店舗が開業した。また、24年度からの継続分を含めて、計6店舗に整備経費や借上経費等を助成した。

⑦. 天文館公園再整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成25年度
事業概要	天文館公園の再整備
事業効果又は進捗状況	25年10月にリニューアルオープンし、以降、商店街等が企画したイベントで活用されるなど、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。

⑧. いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	スクランブル交差点化など来街者の利便性向上につながる施策の推進、事業化検討
事業効果又は進捗状況	25年9月にいづろ交差点近くに貸切バス専用の乗降場を新設した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者通行量は、第1期計画の取組により平成24年まで徐々に増加を続けてきたが、最新値である25年は、基準値である24年の165,664人を大幅に下回る152,707人となり、12,957人減少した（約7.8%減）。

地区別の減少率は、いづろ・天文館地区が約6.4%減、鹿児島中央駅地区が約13.3%減で、鹿児島中央駅地区の方が大きかった。

桜島の火山活動が活発化しており、市街地では9月、10月に大量の降灰があったなかで、調査日にも度重なる噴火・爆発による降灰があり、市民の来街・回遊の意欲を削ぐ影響があったものと推測される。

また、本市の宿泊観光客は、25年5月以降対前年同月比で増加が続いてきたが、調査を行った10月には台風が4回接近し、6か月ぶりに減少した。前述の降灰による減に、台風による観光客等の減が加わり、減少率が大きくなったものと思われる。特に、本市の陸の玄関である鹿児島中央駅地区は、観光客等の減による影響が顕著であったものと考えられる。

今回の減少は、18年以降の増加傾向から急変したものであるが、24年の調査日から25年の調査日までの間に、大規模小売店の倒産や中心市街地外への大型ショッピングセンターの進出など、中心市街地に大きな影響を及ぼす変化は見当たらず、また、11月に商店街関係者から4月以降のまちの賑わいや来街者について昨年との変化を伺ったが、4月以降大きな変化は認識していないとの意見が過半であった。ただし、「10月は、理由は分からないが人通りが少ない気がした。」等の意見もあった。

これらのことを勘案すると、歩行者通行量の減少は、調査を行った10月の天候や桜島の降灰という外的要因に負うものが大きかったと推測される。

第2期計画に掲げた事業の主な取組として、いづろ・天文館地区では、「照国表参道商店街ショッピングモール化事業」に着手し、照国表参道のアーケードの新設・改修が26年2月に完了した。この事業の実施により、中央公園を挟んで近接する歴史・文化ゾーンといづろ・天文館地区のアーケード群からなるショッピングモールがつながっ

た。「天文館シネマパラダイスと周辺商店街連携事業」では91店が連携協力し、映画館の年間利用者数も対前年度比で39.9%増（5月～翌年3月で比較）となるなど、賑わいづくりに貢献し始めている。「いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業」では、いづろ交差点近くに貸切バス専用の乗降場を新設し、9月12日に供用開始。また、「天文館公園再整備事業」により、リニューアル工事を行っていた天文館公園が10月30日に供用を開始し、回遊性と都市機能の向上が図られた。

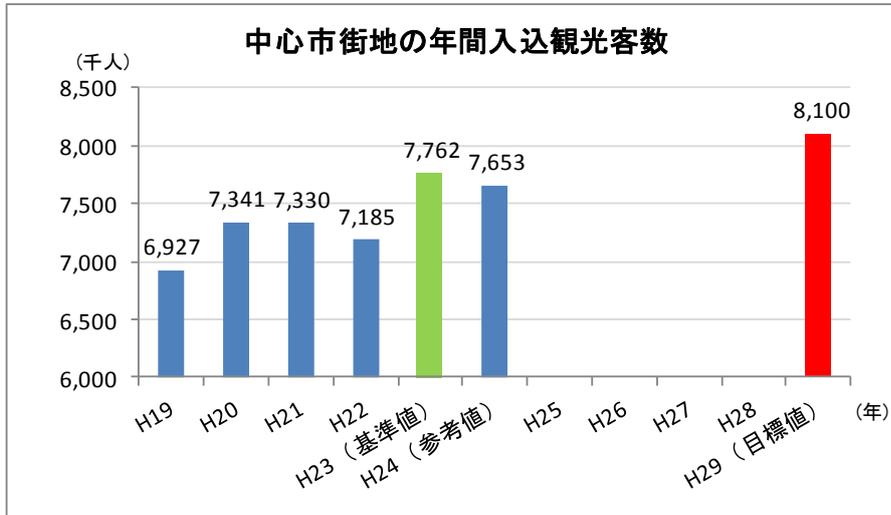
鹿児島中央駅地区では、「中央町1番街区等商業施設活性化事業」により、アミュプラザ鹿児島の増床工事（別館の整備）が始まり、26年秋にリニューアルオープンする予定である。一方、「中央町19・20番街区市街地再開発事業」は、事業の見直しを行い、事業完了時期が1年延びて30年度となったことから、第2期計画の計画期間内にその成果を得ることが困難となった。

25年度の歩行者通行量調査以降の環境変化として、25年11月に中心市街地外の大型ショッピングセンター・イオンモール鹿児島が増床し、アクロスプラザ南栄もオープンした。また、26年4月には消費税増税も控えている。桜島の火山活動という予測不可能な要素も含めて、これらの歩行者通行量に及ぼす影響は懸念されるが、計画に掲載した事業は一部を除き概ね順調に実施されていることや、中心市街地の魅力や賑わいを強化するために、25年度は「いづろ・天文館地区商店街活性化事業」など2事業を追加し、26年度からは「薩摩維新ふるさと博開催事業」等の4事業を新たに実施すること、また、県内景況は緩やかに回復しつつあることなどを考慮すると、歩行者通行量の目標達成は可能であると見込んでいる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P63～P66 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H23	7,762,000 (基準年値)
H24	7,653,000 (参考値)
H25	
H26	
H27	
H28	
H29	8,100,000 (目標値)

※調査方法：観光統計調査

※調査月：1月～12月の実績を翌年8月に集計公表

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：鉄道、バス、自家用車、船舶等の各種交通機関を利用した観光客

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発準備組合）

【再掲】 P 5

事業完了時期	【未】平成30年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に施設整備やデザイン、資金計画等の検討を行うとともに、事業の見直しを行い、事業完了の時期が当初よりも1年延びて30年度となった。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

【再掲】 P 5

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	立体駐車場の増築工事は25年3月に完了し、供用を開始している。 アミュプラザ鹿児島の増床については、25年6月にJR鹿児島中央駅の大階段撤去工事を開始。10月に増床工事（別館の整備）に着手。26年秋オープンを目指している。

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

【再掲】 P 6

事業完了時期	【未】平成28年度
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に着工し、26年度の事業完了を予定していたが、26年秋を目処に事業概要を改めて見直すこととなり、事業完了の時期が当初よりも延びて28年度となった。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

【再掲】 P 6

事業完了時期	【未】平成28年度
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	26年度に建物・機械・電気機器等の機能更新やオープンカフェ設置のための基本計画を策定するために、25年度は飲食店や関係機関等と事前協議を行った。

●目標達成の見通し及び今後の対策

参考値扱いになるが、平成24年の中心市街地の年間入込観光客数は765万3千人と、前年に比べて10万9千人減（前年比1.4%減）であり、九州新幹線が全線開業した

23年の776万2千人に次ぐ過去2番目の人数であった。全線開業から2年目を迎え、全線開業効果が落ち着いてくる中で、急激な反動減に陥ることなく、一定の水準で推移している。

これは、九州新幹線の全線開業を見据えて取り組んできた鹿児島中央駅周辺の再開発や鹿児島中央ターミナルビル・かごつまふるさと屋台村等の整備、また、いづろ・天文館地区におけるLAZO表参道の整備、更に本市固有の歴史文化を魅力とするべく取り組んできた観光施設の整備やおもてなしの実践、年間を通じて行われる多彩なイベント等が効果を現しているものと思われる。

第2期計画に掲げた事業の25年度の主な取組として、「中央町1番街区商業活性化事業」により、アミュプラザ鹿児島の増床工事（別館の整備）が始まった。また、例年実施している春まつりには18万5千人、サマーナイト大花火大会には13万人、おはら祭には23万人の人出があり、多くの観光客を集めた。

その他、観光客を増やすための取組として、新たに“維新のふるさと鹿児島市”PRキャラバン隊を結成し各地のイベントへ派遣するとともに、テレビ広報等のメディアミックスによるPRや関係団体と連携したキャンペーン、修学旅行の誘致を行った。また、国外でも上海・台北など4都市で観光PR活動を行った。

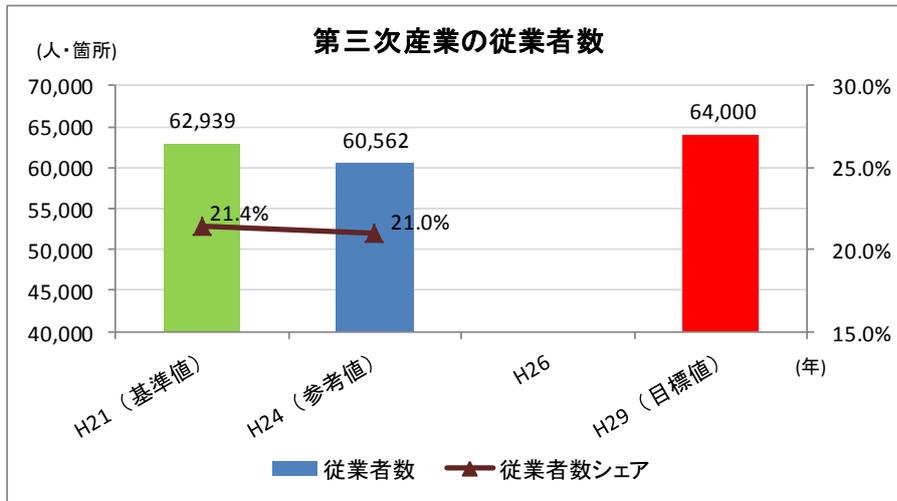
一方、「中央町19・20番街区市街地再開発事業」は、歩行者通行量のところでも述べたとおり、完成が30年度へと遅れることから、第2期計画の計画期間内にその成果を得ることが困難になった。

これまでの観光振興等の取組により、主要宿泊施設の25年度宿泊客数は前年度を2.9%上回ったことや、26年秋にアミュプラザ鹿児島別館がオープン予定であること、また、「薩摩維新ふるさと博開催事業」、「錦江湾潮風フェスタ開催事業」等や、中活事業には含まれないが、桜島・錦江湾ジオパークを生かした情報発信・案内機能向上のための事業等を新たに実施予定であることから、中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「第三次産業の従業者数」※目標設定の考え方基本計画 P67～P69 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H21	62,939 (基準年値)
H24	60,562 (参考値)
H26	
H29	64,000 (目標値)

※調査方法：経済センサス活動調査

※調査月：平成24年2月

※調査主体：総務省統計局

※調査対象：中心市街地における第三次産業の従業者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発準備組合）

【再掲】P5

事業完了時期	【未】平成30年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に施設整備やデザイン、資金計画等の検討を行うとともに、事業の見直しを行い、事業完了の時期が当初よりも1年延びて30年度となった。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

【再掲】P5

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場の増築。
事業効果又は進捗状況	立体駐車場の増築工事は25年3月に完了し、供用を開始している。 アミュプラザ鹿児島の増床については、25年6月にJR鹿児島中央駅の大階段撤去工事を開始。10月に増床工事（別館の整備）に着手。26年秋オープンを目指している。

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）
【再掲】 P 6

事業完了時期	【未】平成28年度
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に着工し、26年度の事業完了を予定していたが、26年秋を目処に事業概要を改めて見直すこととなり、事業完了の時期が当初よりも延びて28年度となった。

④. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）
【再掲】 P 6

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	空き店舗への出店者を募集し、25年度は4店舗が開業した。また、24年度からの継続分を含めて、計6店舗に整備経費や借上経費等を助成した。

⑤. 都市型産業振興事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成11年度～
事業概要	ソフトプラザかごしまを活用した情報関連産業の育成・支援を行うとともに、本市の都市機能の集積を生かした企業立地の推進に取り組む。
事業効果又は進捗状況	25年度は中心市街地内に立地する5社と協定を締結。（うちソフトプラザかごしまへの入居は2社）これらの取組によって新たな雇用が創出された。

●目標達成の見通し及び今後の対策

参考値扱いになるが、平成24年の中心市街地の第三次産業従業者数は60,562人で、21年の62,939人から2,377人（約3.8%）減少した。情報通信業や医療、福祉など従業者の増えた産業もあったが、全体としては減少した。

第三次産業の従業者数は、市全域でも約0.9%減少したが、中心市街地では約3.8%減少したことから、市全域に占める割合は、21年の21.4%から21.0%に低下した。

本市の中心市街地の主要な産業である卸売業・小売業や宿泊業・飲食サービス業の従業者も減少はしたが、その減少率は市全域より小さかった。一方、学術研究や生活関連サービス・娯楽業などは市全域では増加したが、中心市街地では減少しており、異なる傾向を示した。

雇用環境に目を移すと、有効求人倍率においては、調査のあった21年7月から24年2月の間、0.3倍台～0.6倍台で推移し、求人が求職を大きく下回る状況が続いた。このような厳しい就職環境を強いられた新規学卒者の離職率は高く、22年4月就職者のこの3年間における離職率は、大学生38.4%、高校生48.0%にも上っており、鹿児島労働局は、希望外の業種に就職した者の転職や有期雇用の期限切れなどが原因として考えられるとしている。

以上のようなことから、20年秋のリーマンショック以降の厳しい経済情勢とそれに伴う厳しい雇用環境が続いた結果、24年2月における中心市街地の第三次産業従業者数は減少したものと思われる。

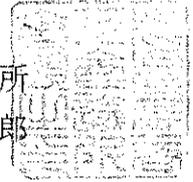
24年2月の経済センサス調査以降は、中活計画の取組により、鹿児島中央ターミナルビルやかごまふるさと屋台村等において約490人の新たな雇用が創出されている。

今後については、「中央町1番街区等商業施設活性化事業」によって、26年秋にアミュプラザ鹿児島の別館がオープン予定であり、その他にも「街なか空き店舗活用事業」による新規出店、「都市型産業振興事業」による情報関連産業やコールセンターなどの企業立地等により第三次産業の従業者の増が見込まれる。

26年4月の消費税増税による景気・雇用への影響が懸念されるが、県内景気は緩やかに回復しつつあり、有効求人倍率や新規学卒者の就職内定率が上昇するなど、雇用環境も改善傾向にあることから、第三次産業の従業者数の目標達成は可能であると見込んでいる。

中心市街地のさらなる活性化に向けて
(今回のフォローアップに対する意見)

鹿児島商工会議所
会頭 岩崎芳太郎



鹿児島市においては、平成25年3月に「第2期中心市街地活性化基本計画」が国の認定を受け、現在、商業の活性化と市街地の整備改善等を目指して、計画の推進に取り組んでいるところである。

今後、中心市街地のさらなる発展を図り賑わいを創出するためには、既存プロジェクトの着実な推進に加え、基本計画の対象地区が極めて広範囲にわたることを踏まえ、エリア別のまちづくりの戦略の検討や新たなプロジェクトの創出等、様々な課題に総合的に取り組んでいくことが必要である。

今回のフォローアップに対する中心市街活性化協議会の意見書を提出するに当たっては、当該意見書の内容に、鹿児島商工会議所として関係する民間セクターの意見が反映されるよう積極的に対応した。このような経過を経て当該意見書が取りまとめられたが、出された意見の中で当該意見書の本文に入れるにはなじまないものは集約して、別途鹿児島商工会議所の意見として下記のとおり提出したい。

記

- 中心市街地活性化基本計画をより実効性のある計画にするためには、計画の策定の初期段階から官民協働というPPPの考え方にに基づき、これまで以上に行政と民間が一体となって参画し、推進することが重要である。
よって、今後の計画の追加や変更に当たっては、官民の協議をより緊密に行うことが必要であることから、協議会の開催頻度を上げることや分科会を設置するなど、協議会の運営に関して商工会議所が積極的にサポートする。
- 基本計画の推進と中心市街地の活性化に向けては、PDCAサイクルに基づき計画のフィードバックを行い、プロジェクトの着実な推進を図る必要がある。
また、必要に応じて計画を柔軟に修正し、よりよい好循環を構築する必要がある。
すなわち、計画のフォローアップに当たっては、単に現状の基本計画のみを評価・検証するにとどまらず、新たなプロジェクトを追加するなど基本計画が常に進化し、事業の効果が中心市街地全体に波及するように努めることが重要である。

以上